

地 理 歴 史

世界史 A、世界史 B

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

世 界 史 A

1 前 文

「世界史 A」の追・再試験については、本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け、出題方針、内容及び難易度等について考察したい。

以下、問題についての細部にわたる検討は、本試験と同様、次の観点を基に実施した。

- (1) 高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に準拠し、「世界史 A」の目標を反映した問題であるか。
- (2) 「世界史 A」の教科書内容に即した問題であるか。
- (3) 「世界史 A」における基本的事項の理解と歴史的思考力を評価する適切な問題であるか。
- (4) 地域・分野・時代のバランス及び難易度・形式・表現などが適切であるか。

2 内 容・範 囲

(1) 試験問題の構成・内容

大 問	設問数	配 点	内 容
第 1 問 世界史上の政治的シンボル（34点）	A 3問	9点	東アジアの政治的シンボルとしての動物
	B 4問	13点	国家や国民の自己意識の象徴としての国旗
	C 4問	12点	政治的シンボルとしての色
第 2 問 世界史上の文化の形成（33点）	A 4問	12点	ヨーロッパのキリスト教世界の形成
	B 4問	12点	タイの国家や文化の形成
	C 3問	9点	バウハウスの歴史的役割
第 3 問 世界史上の国際関係や国際秩序（33点）	A 4問	12点	東アジア国際秩序の変遷
	B 4問	12点	ヨーロッパ五大国体制の成立
	C 3問	9点	主権国家の成立とその限界

第 1 問の A では、問 1 で朝鮮近代史、問 2 でロシア革命、問 3 で米ソの宇宙開発競争について問うた。B では、問 4 でアメリカとカナダの宗主国、問 5 でアメリカの独立、問 6 でカナダの経済政策、問 7 で国際連盟の成立について問うた。C では、問 8 で色にまつわる文化、問 9 でドイツ近現代史、問 10 で平和に関わる出来事や著作、問 11 で京都議定書採択・発効の時期を問うた。

第 2 問の A では、問 1 でヨーロッパでの教会と政治、問 2 で古代の宗教、問 3 で歴史画の作者と時代背景、問 4 で E E C 発足について問うた。B では、問 5 でタイの最初の王朝、問 6 で 13 世紀のアジアの出来事、問 7 でカンボジアの現代史、問 8 で東南アジアの仏教遺跡について問うた。

Cでは、問9でドイツの歴史、問10で19世紀の画家、問11で思想やデザインについて問うた。

第3問のAでは、問1で日明貿易、問2で中国近隣諸地域、問3で日本と中国の欧米との条約、問4で明治維新後の日本の対外関係について問うた。Bでは、問5で18世紀の文献、問6でヨーロッパの植民地支配、問7でロシアの対外関係、問8で諸国の軍事行動について問うた。Cでは、問9で『戦争と平和の法』の著者、問10で20世紀の国際体制、問11で1990年代の内戦について問うた。

(2) 地域別の出題数・出題率

地 域	平成27年度 出題数（出題率）	平成26年度 出題数（出題率）	平成25年度 出題数（出題率）
① ヨーロッパ・北アメリカ	15（45.5%）	12（36.4%）	14（42.4%）
② 東 ア ジ ア	5（15.2%）	6（18.2%）	6（18.2%）
③ 南アジア・東南アジア	4（12.1%）	3（9.1%）	3（9.1%）
④ 西アジア・北アフリカ	3（9.1%）	3（9.1%）	0（0.0%）
⑤ アフリカ・オセアニア・ラテンアメリカ	0（0.0%）	1（3.0%）	4（12.1%）
複 数 地 域 混 在	6（18.2%）	8（24.2%）	6（18.2%）
合 計	33（100.0%）	33（100.0%）	33（100.0%）

【複数地域混在の問題】 10－①④ 11－全地域 17－②③ 29－②④
30－全地域 32－全地域

(3) 分野別の出題数・出題率

分 野	平成27年度 出題数（出題率）	平成26年度 出題数（出題率）	平成25年度 出題数（出題率）
① 政 治 史	20（60.6%）	22（66.7%）	21（63.6%）
② 社 会 経 済 史	3（9.1%）	4（12.1%）	7（21.2%）
③ 文 化 史	8（24.2%）	6（18.2%）	2（6.1%）
複 数 分 野 混 在	2（6.1%）	1（3.0%）	3（9.1%）
合 計	33（100.0%）	33（100.0%）	33（100.0%）

【複数分野混在の問題】 11－①② 17－①③

(4) 時代別の出題数・出題率

時 代	平成27年度 出題数（出題率）	平成26年度 出題数（出題率）	平成25年度 出題数（出題率）
① 古 代 史	2（6.1%）	2（6.1%）	4（12.1%）
② 中 世 史	4（12.1%）	4（12.1%）	3（9.1%）
③ 近 世 史	2（6.1%）	2（6.1%）	3（9.1%）
④ 近 代 史	11（33.3%）	13（39.4%）	13（39.4%）
⑤ 現 代 史	10（30.3%）	4（12.1%）	7（21.2%）
複 数 時 代 混 在	4（12.1%）	8（24.2%）	3（9.1%）
合 計	33（100.0%）	33（100.0%）	33（100.0%）

【複数時代混在の問題】 8－全時代 9－④⑤ 17－②③ 29－③④

3 分量・程度

出題数は本試験と同様に、大問が3問、出題数が33問だった。リード文を全文精読して解答をすることを前提とすると、妥当な出題数である。大問の主題もリード文も「世界史A」の目標に沿い、受験者の興味・関心を刺激し、視野を広げようと工夫されたものだった。出題形式は、昨年度と比べて「事項（語句）選択」が減り、「地図・写真・絵画・グラフなどを使用した設問」と「複数の事項（語句）の組合せ、並びかえの選択」が増えた。また出題内容は学習指導要領の主旨と教科書の内容に沿ったものだった。難易度は前年度並みだと考えられる。

以下に学習指導要領・教科書・授業での扱い方の観点から「適切な問題」と「配慮・工夫を要する問題」への分類を試みる。

【適切な問題】

第1問の問1〔1〕は、19世紀に朝鮮で起こった出来事の年代順を問う出題である。いずれも近代日本の歩みと関連が深く、両国が相互に影響しあってきたという歴史の流れを把握させようとする良問である。問11〔11〕は、環境保護の取組に係る年表に、京都議定書の締結または発効の時期を当てはめるという出題である。日本の環境保護に対するリーダーシップを世界史の中で位置付け、歴史的観点を踏まえて日本の役割を考察させようとする良問である。

第2問の問3〔14〕は、絵画「民衆を導く自由の女神」の題材と作者の組合せを問う出題である。フランス七月革命に関わる代表的な絵画資料を用いて、当時の民衆とブルジョワジーが共に自由を求めるという理想や熱気を具体的に理解しているかを問うとともに、当時の思潮であるロマン主義の代表的画家について問う、基本的事項の理解を測る問題である。

第3問の問11〔33〕は、社会主義体制の瓦解に伴い、1990年代に民族対立が激化し内戦が起こった国の名称と地図中の位置の組合せを問う出題である。冷戦の時代から今日の地域紛争の時代への転換点となった歴史的事象を、地図を活用して空間的に正しく位置付けて理解しているかを問う、基本的事項の理解を測る問題である。

【配慮・工夫を要する問題】

第1問の問4〔4〕は、国旗に国家や国民の自己意識を読み取るというリード文を受けて、具体的な国について問う意欲的な出題である。ただし、問題そのものはアメリカやカナダを植民地にしていた国の名称を選択肢から選ぶ単純なもので、更に図版の旧カナダ国旗の中にユニオンジャックを読み取ることができ、やや易しすぎる問題であった。

第2問の問11〔22〕は、「思想やデザイン」に関わる選択肢が分野・時代・地域ともに拡散し、リード文とのつながりが弱い。分野や地域を絞るなどの工夫をお願いしたい。難易度としては問題はないが、漫然とした出題という印象である。

第3問の問2〔24〕は、①～③までは国家や王朝の成立についての記述であるが、正答の④のみ外交案件となっており、内容的に異質である。選択肢は、性質を統一することが望ましい。問7〔29〕は、ロシアが周辺各国と結んだ条約を時代順に並べることで、領土が拡大する過程を捉えようとする出題である。「世界史B」としては良問だが、「世界史A」の教科書には条約名の記載がないものもあり、受験者にとってはなじみの薄い難問だと言える。

4 表 現 ・ 形 式

設問形式	平成27年度 出題数（出題率）	平成26年度 出題数（出題率）	平成25年度 出題数（出題率）
正しい（適切な・該当する）ものを選択	32（97.0%）	29（87.9%）	29（87.9%）
誤った（関係ない）ものを選択	1（3.0%）	4（12.1%）	4（12.1%）
文章選択	10（30.3%）	10（30.3%）	13（39.4%）
事項（語句）選択	7（21.2%）	10（30.3%）	4（12.1%）
複数の事項（語句）の組合せ、並べかえの選択	13（39.4%）	11（33.3%）	11（33.3%）
地図・写真・絵画・グラフなどを使用した設問	3（9.1%）	2（6.1%）	5（15.2%）
合 計	33（100.0%）	33（100.0%）	33（100.0%）

5 要 約

本試験と同様、本年度もおおむね学習指導要領の主旨に沿い、教科書の内容をよく踏まえた出題であった。第1問「世界史上の政治的シンボル」、第2問「世界史上の文化の形成」、第3問「世界史上の国際関係や国際秩序」と、例年と同様の大問が三つの構成であった。リード文については、本試験以上にバラエティに富み、興味深いものが多かった。しかし、各設問の中身について見ると、本試験と比べても細かな知識を要求されるものや、リード文と設問の関連が薄いものが目立った。例えば、第2問のCについては、バウハウスの説明や校舎の外観図は魅力的であるが、設問との関連が薄く、せっかくのリード文が生きていない。対照的に、東アジアの国際関係について問うた第3問Aのように、リード文とそれを具体化した設問とが緊密に関係している問題もある。例えば、バウハウス以前の建築の写真も示すなどし、それとの対比で近代化・工業化が文化や美意識に及ぼした影響等について問うような出題であれば、更に深みのある良問となったのではないか。

出題のバランスについて見ると、地域別では、「ヨーロッパ・北アメリカ」が多く、「アフリカ・オセアニア・ラテンアメリカ」がない。なるべく全地域を網羅した問題となるようにお願いしたい。分野別では文化史の出題が多く、本試験よりむしろバランスが良い。時代別では近・現代中心であり、本試験同様、「世界史A」の目標にかなうものとなっている。

追・再試験は今回も受験者数が極めて少なく、平均点で「世界史B」や他の地理歴史科の科目と比較して難易度を論じることができない。しかし、上記のように細かな知識を問われる問題が目立ったことから、本試験よりやや難しかったのではないか。

「世界史A」の出題は、近・現代中心で時代的な制約が厳しいため苦勞が多いことと思われるが、一方で、現代との関連を重視し歴史的思考力を培うという科目の目標からは、複数の地域、分野、時代を横断したテーマの問題や、グラフや図表の読み取りを重視した問題など、新たな工夫が可能な領域でもある。本試験の報告でも述べたように、大学入試センター試験の出題の在り方は、高校生の学習への取組に大きな影響を及ぼすものであるから、生徒の主体的な学びの意欲を引き出すような出題について、今後も御配慮をお願いしたい。

世界史 B

1 前 文

追・再試験の受験者数や平均点などは公表されていないため、出題の内容や難易度などについて、高等学校の教科担当としての視点から分析を行った。

以下、各問題の検討については次の観点に基づいて実施した。

- (1) 高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）に準拠し、「世界史 B」の学習目標に適合しているか。
- (2) 教科書の内容に即し、それを逸脱しない出題であるか。
- (3) 世界史の基本的事項の理解と歴史的思考力を評価する適切な問題であるか。
- (4) 問題数・配点や出題の地域別・分野別・時代別のバランスは適切か。
- (5) 問題の難易度・形式・表現などが適切であるか。

2 内 容・範 囲

(1) 試験問題の構成・内容

大 問	設問数	配 点	内 容
第 1 問	世界史上の領域支配や領土拡大（25 点）		
	A 3 問	9 点	統治体制と領域
	B 3 問	8 点	ヨーロッパ諸国による海外領土の拡大
	C 3 問	8 点	東南アジアの領域支配
第 2 問	世界史上の国家と経済との関わり（25 点）		
	A 3 問	8 点	中国の財政
	B 3 問	8 点	ヨーロッパの金融・財政政策
	C 3 問	9 点	世界市場の形成と中国
第 3 問	世界史における余暇や娯楽の変遷（25 点）		
	A 3 問	8 点	狩猟と娯楽
	B 3 問	9 点	嗜好品と禁止令
	C 3 問	8 点	技術革新と余暇
第 4 問	世界史上の史料（25 点）		
	A 3 問	8 点	業績録
	B 3 問	9 点	世界図
	C 3 問	8 点	翻訳

(2) 地域別の出題数・出題率

地域 \ 年度・出題数	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
	出題数（出題率）	出題数（出題率）	出題数（出題率）
西 欧 ・ 北 米	12（33.3%）	10（27.8%）	12（33.3%）
東 欧 ・ ロ シ ア	0（0.0%）	3（8.3%）	3（8.3%）
東 ・ 内 陸 ア ジ ア	10（27.8%）	9（25.0%）	9（25.0%）
南 ・ 東 南 ア ジ ア	6（16.7%）	3（8.3%）	4（11.1%）
西 ア ジ ア ・ ア フ リ カ	5（13.9%）	3（8.3%）	5（13.9%）
中 南 米 ・ オ セ ア ニ ア	1（2.8%）	3（8.3%）	1（2.8%）
複 数 地 域 混 合	2（5.6%）	5（13.9%）	2（5.6%）
合 計	36（100.0%）	36（100.0%）	36（100.0%）

(3) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	平成27年度	平成26年度	平成25年度
	出題数（出題率）	出題数（出題率）	出題数（出題率）
政治史	15（41.7%）	18（50.0%）	17（47.2%）
社会経済史	5（13.9%）	15（41.7%）	6（16.7%）
文化史	15（41.7%）	3（8.3%）	13（36.1%）
複数分野混合	1（2.8%）	0（0.0%）	0（0.0%）
合計	36（100.0%）	36（100.0%）	36（100.0%）

(4) 時代別の出題数・出題率

年度・出題数 時代	平成27年度	平成26年度	平成25年度
	出題数（出題率）	出題数（出題率）	出題数（出題率）
古代史	4（11.1%）	3（8.3%）	3（8.3%）
中世史	6（16.7%）	9（25.0%）	15（41.7%）
近世史	6（16.7%）	5（13.9%）	4（11.1%）
近代史	6（16.7%）	9（25.0%）	4（11.1%）
現代史	9（25.0%）	6（16.7%）	6（16.7%）
〔うち戦後史〕	4（11.1%）	4（11.1%）	0（0.0%）
複数時代混合	5（13.9%）	4（11.1%）	4（11.1%）
合計	36（100.0%）	36（100.0%）	36（100.0%）

中世（5 c～14 c）・近世（15 c～17 c）・近代（18 c～19 c）・現代（20 c）を目安とする。

(5) 出題形式別の出題数

年度・出題数 設問形式	平成27年度	平成26年度	平成25年度
	出題数（出題率）	出題数（出題率）	出題数（出題率）
正しい（適切な・該当する）ものを選択	31（86.1%）	31（86.1%）	32（88.9%）
誤った（関係ない）ものを選択	5（13.9%）	5（13.9%）	4（11.1%）
文章選択	14（38.9%）	17（47.2%）	15（41.7%）
事項（語句）選択	6（16.7%）	4（11.1%）	9（25.0%）
複数の事項（語句）の組合せから選択	15（41.7%）	15（41.7%）	10（27.8%）
地図・写真・絵画・グラフ・年表などを使用	5（13.9%）	3（8.3%）	2（5.6%）
合計設問数	36（100.0%）	36（100.0%）	36（100.0%）

6 択問題は、2 問であった。

3 試験問題の分量・程度

追・再試験の出題数は36問で、本試験と同様であり、また例年と同じく分量についても適切であった。難易度については、例年と比べてやや易しいという印象を受ける。以下、大問ごとにそれぞれの設問について、感想も含めて個別に検討を行う。

第1問 世界史上の領域支配や領土拡大について

世界史上の領域支配や領土拡大に関連して、Aは統治体制と領域、Bはヨーロッパ諸国による海外領土の拡大、Cは東南アジアの領域支配についてのリード文を基に出題されている。政治史に関する出題が多く、全体的な難易度はやや易しい。

- 問1 世界史上の領域や領土について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。
- 問2 インドにおける植民地支配について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。
- 問3 ムガル帝国の最大版図の地図を選択する問題。基本的事項である。
- 問4 18世紀の探検家クックの事績について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。
- 問5 アフリカの歴史についての二事項判別問題。基本的事項である。
- 問6 植民地支配に対する抵抗運動について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。
- 問7 ベトナム戦争について、空欄に当てはまる語句の正しい組合せを選択する問題。基本的事項である。
- 問8 スペインのアジア進出について、正しい組合せを選択する問題。基本的事項である。
- 問9 コンバウン朝が成立した時期について、年表から選択する問題。ビルマ戦争について理解していないと判断できない。

第2問 世界史上の国家と経済との関わりについて

世界史上の国家と経済との関わりに関連して、Aは中国の財政、Bはヨーロッパの金融・財政政策、Cは世界市場の形成と中国についてのリード文を基に出題されている。社会経済史の出題が多く、全体的な難易度は標準である。

- 問1 前漢の制度についての二事項判別問題。基本的事項である。
- 問2 中国の農業について、正しい文を選択する問題。①②④が誤りであることが判断できる。
- 問3 中国の税制について、年代順に並べる問題。王朝と制度の理解がないと判断が難しい。
- 問4 世界史上の金融・通貨の歴史について、誤った文を選択する問題。年代と歴史事項についての正しい理解がないと判断が難しい。
- 問5 1960年から1980年にかけてのイギリス・フランス・西ドイツの自動車生産台数の推移を示したグラフから読み取る二事項判別問題。ベルリンの壁の建設とイギリスのEC加盟の時代背景を理解していないと判断が難しい。良問である。
- 問6 フランスの重商主義について、空欄に当てはまる語句の正しい組合せを選択する問題。基本的事項である。
- 問7 中華人民共和国の改革について、空欄に当てはまる語句の正しい組合せを選択する問題。基本的事項である。
- 問8 1970年代に起こった出来事について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。
- 問9 19世紀に「世界の工場」と呼ばれた国について、正しい事項を選択する問題。基本的事項である。

第3問 世界史における余暇や娯楽の変遷について

世界史における余暇や娯楽の変遷について、Aは狩猟と娯楽、Bは嗜好品と禁止令、Cは技術革新と余暇について述べたリード文を基に出題されている。文化史に関する設問が多く、全体的な難易度としてはやや易しい。

- 問1 狩猟についての二事項判別問題。女真族についての正しい知識があれば、判断できる。
- 問2 中世ヨーロッパの文芸作品について、誤りの事項を選択する問題。基本的事項である。
- 問3 14世紀のヨーロッパについて、正しい文を選択する問題。①③④が誤りであることが容易に判断できる。
- 問4 イスラム社会の公共施設についての二事項判別問題。基本的事項である。
- 問5 嗜好品の歴史について、年代順に並べる問題。基本的事項である。
- 問6 世界史上の禁止措置や禁止令について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。
- 問7 技術革新についての二事項判別問題。基本的事項である。

問8 アメリカ合衆国の領土拡大について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。

問9 1920年代のアメリカ合衆国について、誤った文を選択する問題。基本的事項である。

第4問 世界史上の史料について

世界史上の史料について、Aは業績録、Bは世界図、Cは翻訳についてのリード文を基に出題されている。文化史に関する設問が多く、全体的な難易度としてはやや易しい。

問1 アウグストゥスの業績録よりも前の時期に著された書物について、正しい事項を選択する問題。基本的事項である。

問2 世界史上の君主と建造物について、誤りを含む文を選択する問題。基本的事項である。

問3 碑文についての二事項判別問題。基本的事項である。

問4 『坤輿万国全図』に関連した正しい組合せを選択する問題。正確な知識がないと判断が難しい。

問5 アフリカの歴史について、誤った文を選択する問題。基本的事項である。

問6 キリスト教について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。

問7 朝鮮（李朝）について、空欄に当てはまる語句の正しい組合せを選択する問題。基本的事項である。

問8 世界史上の王朝とその創始者について、正しい文を選択する問題。基本的事項である。

問9 仏教の經典の翻訳や布教について、正しい事項を選択する問題。基本的事項である。

4 試験問題の表現・形式

表現については、全体の構成として学習指導要領の狙いを反映したリード文を題材にして設問を展開していく形を取っており、従前のおりであった。リード文の長さも適当であり、設問の表現も創意工夫されていて、受験者も興味を持って読むことができたのではないかな。

年表や地図などの資料を利用して諸地域世界を比較する問題は、全5問中3問が第1問で出題された。またa・b二事項についての正確な知識かつグラフを読み取る能力を試す問題が、第2問「世界史上の国家と経済との関わり」の問5で出題されたが、受験者の多面的な見方や多様な思考力・判断力を問う問題で良問である。第3問「世界史における余暇や娯楽の変遷」は、「日常生活に見る世界の歴史」の観点として出題されたが、問4のイスラーム文化について多角的で柔軟な見方を考えさせる問題や、問5のイギリスの紅茶を飲む習慣が成立した背景を事項aから読み取らせる空間軸に着目した問題が特徴的であった。第4問「世界史上の史料」のCは、写真史料（『竜飛御天歌』第二章）を活用して判断させる問題であった。

a・b二事項の正誤を判断する問題は、7問と昨年度並みであった。事項（語句）選択の問題は6問で、単純に知識を問うだけの問題は減少している。なお本年度も誤った（関係のない）ものを選択させる問題と正しい（適切な・該当する）ものを選択させる問題のバランスは、例年並みであった。問題に変化を付け多面的な思考を測る上で適度なバランスであると考ええる。

5 要 約（総括的な評価）

本年度の追・再試験は、全体的に見ると学習指導要領に即したものであった。

地域別では、「西欧・北米」と「東・内陸アジア」を合わせると6割を超えている。一方「複数地域混合」「近代史」が減少し「現代史」が増加したが、おおむねバランスが取れた出題であった。

しかし、例年の追・再試験に比べて易しかったため、これ以上の易化は避けるべきであろう。また、学習指導要領の趣旨に沿い、日本との関連について出題するべきであると考ええる。